

特別講演 1

「心血管インターベンションと血管保護療法」

金沢大学 循環器内科 教授

山岸 正和 先生

狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患に対する積極的治療として冠動脈狭窄へのインターベンション療法が一般的治療として多用される。殊に薬剤溶出性ステントが用いられるようになり、血管局所での再狭窄率が激減したことから、ますますこの傾向が強くなった。しかし、虚血性心疾患の再発予防においては、現在のところ、インターベンション治療により心筋梗塞や突然死を予防し得たとの成績は提示されていない。また、最近では遅発性血栓症の問題など、ステントの多用に伴う合併症の報告もあり、局所療法の限界も議論されるようになりつつある。

強力なスタチン製剤による集中的な脂質低下療法や長時間作用型のカルシウム拮抗剤による厳密な高血圧管理、さらに血管保護の立場からの糖尿病に対する介入など、全身管理の重要性が強調されるようになった。本公演では、インターベンションと共に必要不可欠な虚血性心疾患における血管保護療法について議論してみたい。